

春風秋霜 6月号

平成27年6月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風を持って人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 関東地区都市教育長協議会に参加して

この会議では、文部科学省から行政説明がありました。その中で、『何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶか』を大切にしたいという話がありました。その例として、アクティブラーニングの充実が挙げられました。アクティブラーニングには様々な方法が考えられますが、子供の主体性や共同性を重視した授業を大切にするということです。

これまでも授業改善の視点として大切にされてきた内容ですが、今一度、確認をお願いします。

また、チーム学校の推進も話題になりました。教員を中心に、多様な専門性を持ったスタッフを学校に配置し、学校の教育力・組織力を向上することがねらいです。教員定数としては、230人（全国）の措置ですから、学校現場が効果を実感するには難しいかもしれません。しかし、島田市の各学校では、外部人材を入れたケース会議が定着してきています。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめとした外部人材を有効に活用し、チーム学校を実現して欲しいと思います。

2 学校訪問が始まりました

教育委員による学校訪問が始まっています。島田市の教育委員は毎年全ての学校を訪問しています。できるだけ5人の教育委員と教育部長が揃って訪問したいと思っていますが、叶わない場合もありますからご理解をお願いいたします。

ある小学校を訪問した時、1年生の国語の授業でひらがなの勉強をしていました。「き」をつかった言葉探しをする子供たちの中に、「きじ」と答えた子供がいました。私は、鳥の雛だと思いましたが、パンの生地でした。

この子供の家庭は、家でパンを焼くから生地という言葉を知っていたのだろうと思います。もしかしたら、母親とパン作りをした経験があるのかもしれませんが、しかし、他の子供たちの反応を見ていると、どれだけ生地という言葉を理解できたのか心配になりました。

本時が言葉探しの時間なら、生地と答えたところで目標は達成できているのかもしれませんが、生地という言葉を出した理由や背景を子供にちょっと話させたなら、生地という言葉の理解が深まったり、パン作りに興味をもったりする子供が現れるかもしれません。教師にとっては、子供の家庭での生活を知る機会になったかもしれないし、子供の活動を価値付ける内容があったかもしれません。

今年は価値付けるということをお願いしていますが、単語だけの発表では見つからない価値も、少しの説明を求めることにより価値付けが可能になる場合があります。まずは、単語だけが飛び交う授業を無くしたいものです。きっと、授業が楽しくなるはずです。

3 少年犯罪について

5月25日の島田署管内防犯協会総会において、昨年度の犯罪の発生状況が報告されました。昨年、検挙された少年は、27人（平成25年度比+7人）と増加していますが、平成22年度（62人）に比べれば大きく減少しています。罪種別では、万引きが大部分を占めて

います。

補導された少年は、440人で前年比—171人と大きく減少しました。罪種別では、喫煙(118人)深夜徘徊(294人)が目立ちます。

万引きは、表面化しないものも多いと思われます。個人情報保護の観点から、お店などからの情報入手が難しいと思いますが、保護者との信頼関係の中で情報をつかみ、家庭と連携して指導の徹底をお願いします。

4 献血をしてみませんか

26日に市役所で献血をしました。日赤の職員によると、若者の献血者数の減少と高齢者による血液使用量が増えていることが、血液の不足につながっているとのことでした。私は、奉仕と自分の健康管理を目的に献血を続けてきましたが、当日に会った市役所のある課長は、70回を超える献血をしていました。市職員の中には100回を超える方もいるそうです。

献血場所は、静岡市あおばシンボルロードの献血ルーム(毎日江崎ビル6階)や島田市役所(毎月第4火曜日)他で行われています。献血すると細かい血液データが頂けるので、ぜひ、献血に挑戦してみてください。なお、献血ルームでは土曜日でも献血できます。

(あおば献血ルーム ☎ 0120-930-550)

5 ちょっと一休み

大井川にムシトリナデシコが咲き始めました。去年の台風による増水で、今年の開花が心配されましたが、今年もしっかり咲き始めました。植物の生命力の強さには驚かされます。



肘かけ椅子

高橋 典子 教育委員

『応援しています!』

社会の家族形態の多様性や少子化によって、自分の子供を抱くまで一度も赤ん坊を抱いたことが無いという親が多くなりました。自分の思いどおりにならないという理由(言うことを聞かない、泣き止まないなど)で、虐待や育児放棄になってしまう家庭もあります。

本当は親になるずっと前、小学生、中学生、高校生の時に赤ん坊を抱いたり、幼児と遊んだりして、自分も通ってきた幼い子供の様子を知る時間があればよいと思うのです。私が3年ほど前から携わっている子育て支援(親支援)講座に、カナダで生まれた“Nobody’s Perfect:完璧な親なんていない(略称・NP)”と、日本で生まれた“親子の絆づくり—赤ちゃんがきた!(愛称BP)ベビープログラム”があります。

NPは0~5歳児を持つ母親を対象に、託児つきで週1回、6週間をかけてお互いの悩みを出し合い、自分に合った子育てを学んでいくものです。また、BPは初めて子供を持った母親対象に週1回、4週間をかけて育児をし始めた早期の段階で子育て仲間を作り、育児の基本的な知識を学ぶことによって、子供への虐待や産後うつ病などを未然に予防するためのプログラムです。生後2~4ヶ月の赤ちゃんと一緒に参加します。社会教育課と健康づくり課の共催で実施します。この乳幼児期からの支援が思春期の子育ての問題解消につながることを目標にして、親主体のたくましい子育てを応援していきたいと思っています。